

【大阪の歴史散歩】

史跡 近松門左衛門墓所

NHKテレビでは日曜日の夜8時から大河ドラマ「徳川吉宗」が放映されている。その要所々々に当時の時代背景の解説者として登場するのが江守徹扮する近松門左衛門である。

大阪市内にはいくつかの「歴史の散歩道」が設定されているが、そのうちの一つ上町台地北コースの途中に近松門左衛門の墓がひっそりと佇んでいる。地下鉄谷町線「谷町6丁目」を天王寺寄りに下車し、3番出口から谷町筋を徒歩5分ほど南下すると、マンションとガソリンスタンドの間の路地の奥の殆ど人目につかない場所に建てられている。墓はもともと妙法寺の境内にあったがこの寺が大東市に移転するのに伴って、この場所に移されたものである。

近松門左衛門は1653年越前吉江藩士の子として生れ、京都に出て浄瑠璃作家として修行を積み、31才で『世継曾我』をデビュー作として、竹本義太夫のために書いた『出世景清』が文字通り出世

作となった。音曲本位の浄瑠璃を戯曲にまで高めた劇作家として不動の地位を築き、後世には日本のシェイクスピアと称されている。のちに坂田藤十郎のために歌舞伎狂言を書きさらに名声をあげた。晩年は大坂に住み、竹本座の座付作者として『国性爺合戦』、『心中天網島』などの名作を残した。近松の作品には義理人情の葛藤とそれにまつわる人間的苦悩を描いたものが多く、『曾根崎心中』などの世話物に代表される一連のシリーズには、悲劇の中に人間性の発露を見出そうとする近松の浄瑠璃にかける創作態度がよくあらわれている。近松は1724年71才で没し、尼崎市の広済寺にも墓があり、ともに本墓である。

近辺には、花の元禄文学を近松門左衛門、松尾芭蕉と競った井原西鶴（1642～1693年）の墓所である誓願寺もある。

（現地へは、大阪駅＝東梅田から地下鉄谷町線で9分、徒歩5分）

